

おち町

議会だより OCHI TOWN

No.89

2009年8月1日発行
高知県越知町議会



仁淀川のアユのとりこです。(鎌井田)

小学校卒業まで医療費無料 3

21年度一般会計補正 3億6475万円

町内で働く町外の人も消防団に 条例改正 4

農業、医療、町振興策など4人が問う 一般質問 6

黒森山の購入を計画 町長の行政報告10

土佐ブンタンの知名度アップを 岡林農園12



「対話と実行」 知事と住民との座談会（虹色の里 横島）

一般会計補正

国からの臨時交付金など
3億6475万円を追加

6月定例会は、12日から16日までの会期で行い、JR越知駅跡地への情報ステーションおち（仮称）建設工事やコスモス荘改修工事などの一般会計補正予算および横倉山自然の森博物館外壁改修工事などの特別会計補正予算、条例改正など9件を全会一致で可決しました。
 一般質問は4人が登壇し、農業や医療問題、町の振興策などを問いました。

観光

観光費

JR越知駅跡地に情報ステーションおち（仮称）建設費と施設の備品購入費を合わせて6750万円。
 旧松山街道の整備委託費、仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会負担金など。

情報ステーションおち **6750万円**

斎藤政広議員

道の整備の内容は。

小田産業建設課長

シルバー人材センターに委託して、堂岡―薬師堂間の4.6キロの草刈りや道の整備を行う。全額県の補助金。

旧松山街

シル

農業

耕作放棄地の再生

斎藤政広議員 地域農業振興業務委託費833万円の内容は。

小田産業建設課長

農業法人が野老山中村地区の耕作放棄地に山椒やダイダイを植えて農地を再生する。全額県の補助金で、農業法人の世話役1人と新規雇用4人の人件費に充てる。

道路

土木費

町道冠水警報システム整備、ガードレール、落石防護、待避所設置工事などに7950万円。
 町道筏津線と今成深瀬線の交付金事業に2480万円。橋梁点検に500万円など。

電光掲示板で道路冠水を表示

大川信輝議員 町道冠水の警報表示はどんなものどこに設置するか。

小田産業建設課長

中学校前や3区から女川、10区などに電光掲示板を設置して、洪水で町道が冠水する前の注意と冠水した時の通行止めを表示する。

6月補正予算

会計名	補正額	総額
一般会計	3億6475万円	40億1641万円
特別会計	介護保険	267万円
	自然の森博物館	2255万円
		9億0216万円
		4752万円

乳幼児
医療費

小学校卒業まで無料

21年10月1日から

民生費

コスモス荘改修に2928万円。小学校卒業までの医療費に517万円。子育て応援特別手当に522万円など。

コスモス荘の改修

大川信輝議員 コスモス荘の改修内容は、

藤原住民課長 内装には木材を使い、風呂場の撤去や部屋の改修、介護予防のための木製の運動器具や子どもたちとの交流を考えた遊具、外観は中学生のペイントなどを考えている。

医療費 小卒まで無料化

山橋正男議員 乳幼児医療費扶助と子育て支援特別手当は継続するか。

藤原住民課長

乳幼児医療費は町の単独費用で、小学校卒業まで無料化を継続する。「8割に関連記事」システムの改修などをして10月1日から実施する。

子育て支援特別手当は全額国庫補助金で、本年10月1日付けで住民台帳に登録される平成15年4月2日から平成18年4月1日生まれの人に、1人当たり3万6000円を支給する。

1人目から適用で本年度限りの支給。

教育費

50型テレビ37台購入

小中学校と幼稚園、町民会館に50型デジタルテレビを合わせて37台購入。総合運動場のトイレを663万円で水洗化。

武智龍議員

デジタルテレビは、避難所になつていく公民館には買わないか。

山中教育次長

公民館には、学校の買い替えたテレビにデジタルチューナーを付けて対応する。

消防費

消防団本部の非常電源装置整備工事。

火災警報器を1824万円、1世帯に2個配付。

ヘリポート（越知・野老山・日ノ浦）の整備に1110万円など。

火災警報器 1世帯に2個

岡林学議員

火災警報器の配付内容と高齢者・障害者世帯の取り付けは。

大原総務課長

町営住宅と五葉荘を除く全世帯に2個ずつ配付する。一般世帯

は個々に取り付けてもらうが、65歳以上や障害者世帯には、取り付けを委託する。

火災警報器は電池式で、簡単にネジで固定できる。煙を感じて音声と警報音で火災を知らせる。

越知ヘリポート 夜間照明付き

寺村晃幸議員

発注と完成時期は。

武智龍議員

夜間の使用はできるか。

大原総務課長

越知ヘリポートは、北側の民有地の買収と県の補助が決定したら着工するので完成は未定。夜間照明施設を備える。

博物館会計

外壁の改修工事

国の経済危機対策臨時交付金2255万円で横倉山自然の森博物館の外壁改修とDVD映像機器を購入。外壁の改修は、亀裂を補修して透明のフッ素はつ水材を塗装する。手すりの塗装や防水工事も行つ。

福祉・教育

防災



町内で働く町外の人も消防団に

消防団員は、満18歳以上で町内に住む人と決まっていたが、町内で働き町外に住む人も入団できることとする。(賛成・全員)

藤原俊夫議員 休日や夜間の招集はどうする。
大原総務課長 携帯電話で招集する。逆に町内に住み昼間は町外で働く団員にも携帯電話で招集している。

山橋正男議員 働いている地区の分団に入るのか。

大原総務課長 勤務地区の分団に入るのが合理的だが、そういう定めではない。



若者の入団を期待



地産地消へ関心が高まる貸付農地



遊休農地の貸付 議決不要に

議会の議決を得ないで町有地の無償貸付ができる項目に、遊休農地の解消を図るための特定農地貸付を加える。(賛成・全員)

河川敷地の占用申請

宮ノ前公園の整備

県への占用許可申請において、全体面積の実測を行った結果、7375平方メートル増えたため、占用する面積を5万8375平方メートルとして申請する。(賛成・全員)

町道の認定 (賛成・全員)

路線名	道路延長	道路幅員
町道大溝川線	453.0m	4.0~8.6m
町道桐ノ峠水道線	562.0m	2.5~6.0m
町道西窪線	186.0m	2.2~3.5m

横畠辺地総合整備計画の変更 (19-22年度) 町道薬師堂深瀬線に 今成深瀬線と筏津線を追加

町道薬師堂深瀬線に、今成深瀬線と筏津線の改良舗装工事を追加し、3路線を3億8800万円の事業費で整備する。
国道33号「越知道路」の1^ク区間が供用され、接続する農道筏津線の完了に伴い、横畠地区の緊急医療への対応や農作物の生産性向上を図る。(賛成・全員)

意見書

国鉄職員の不採用問題の解決を

(提出者 藤原俊夫議員)

国鉄が分割・民営化の際、一部の職員の不採用問題が解決されていない。

ILO(国際労働機関)は、政府に労働争議の解決に向け、関係者との話し合いを求めている。また、東京高裁は本年3月に、国労組合員の不採用は不当労働行為と認めた。

不採用となつた当事者や家族のため、問題解決に向け努力することを望む。(賛成・全員)

【提出先】総理・厚生・国土交通の各大臣

意見書

地方議会が地方の公益に関する要望や提言などを決め、国会や関係行政に提出する。

臨時会

4月24日と5月26日の2回開き、役場の耐震改修工事の請負契約、21年度一般会計補正、専決処分、監査委員の選任同意など9件を全会一致で可決、承認、同意しました。



耐震工事で安全な庁舎に

請負契約

役場の耐震改修工事

県内6社の指名競争入札で、高知市の(株)宮崎技建(代表 宮崎興正)が落札し、1億5214万5000円で契約する。(賛成・全員)

21年度一般会計補正

631万円を追加し、総額を36億5166万円とする。

JR越知駅跡地に計画の情報ステーションおち(仮称)の設計監理委託に300万円。集落整備事業補助金に225万円など。(賛成・全員)

町有地の無償貸付

家庭菜園などに利用できる文徳の町有地2区画(1区画約30平方メートル)を1人に貸し付ける。(賛成・全員)

専決処分

(4件を全会一致で承認)

20年度一般会計補正

地方交付税等の最終確定による財源調整で、減債基金積立に1800万円を追加し、総額40億2287万円とする。

固定資産税

製造業、ソフトウェア業または旅館業が、設備の新設や増設を行った場合、平成22年3月31日まで固定資産税を課税しない。

町税

住民税の住宅ローン特別控除と土地の長期譲渡所得に係る特別控除の創設。その他の土地税制の延長、上場株式等の配当および譲渡益の課税特例の改正など。

国民健康保険税

地方税法の改正に伴い、国保税の減額要件の見直しとこれに伴う課税特例の見直しを行う。

● 専決処分

出席議員が過半数に達せず議会を開けない場合や、緊急を要して議会を招集する時間的余裕がない場合などに、議決が必要な事件を長の権限で処分(決定)すること。
専決処分は、次の議会で承認を得なければならない。

6月ボーナスを引き下げ

県の人事委員会の勧告により、一般職の期末勤勉手当を0・175カ月引き下げて1・95カ月とする。また、特別職と議員の期末手当を0・15カ月引き下げて、1・25カ月とする。(賛成・全員)

監査委員の選任

池裕生氏(5区)を再任する。(同意・全員)

招くための施設改修と財源

球団の使用期間が問題／町長



ふじはら としお 議員
藤原 俊夫



学童野球で大勢の子どもたちが熱戦を繰り広げている

問 臨時会の行政報告では、高知ファイティングドッグスを佐川町と協力して招致し、練習は町民運動場を使用すると聞いた。

吉岡町長 この件は、すべてが急ぎ過ぎの感がある。球団がグラウンドをどれくらいの期間使用してくれるかが一番の問題である。それが示されてから、どの程度の整備をするかを話し合わなければならぬので、財源の話はできない。

町民プール

傷んだ所の修繕を急げ 7月までに修繕／教育次長

問 町民プールは、県内に少ない50坪プールで、本町の自慢の施設だが、大変傷んでいる所がある。修繕はどのように考えているか。



傷みが目立つ丸山プール

問 市街地の町道の側溝に蓋が掛かっているが、開けるには重いので掃除ができない。

答 勾配のない所は、土砂が溜まって流れが悪く、悪臭がしている。役場に対応できないか。

補助事業で対応

小田産業建設課長 最近の側溝蓋は、安全性や騒音防止を重視した作りのため、簡単に取り外せない。補助事業でできるものがあるので、現在事務作業を進めており、23年度までに対応したい。

その他の質問

問 国の借金が900兆円を超し、黒字化も10年遅れるとのことだが、影響は。

答 できるだけ無駄を省き、借金を返していく以外にないが、現状では何とも言えない。

山中教育次長 町民プールは、昭和57年に建築して27年になる。1カ月くらいで延べ2000人が利用している。老朽化して修繕をしなければならぬ箇所があり、更衣室やトイレは7月のオープンまでに修繕する。全体改修は、今年ではできないが、財政や利用者の状況を見ながら適切な対応をしたい。

大原総務課長 火災時のプールの水の利用は、立地的に落差による水圧を利用した消火栓が考えられるが、消防署と話し合い、効果や設備費用を検討したい。

責任者未定では

信用性が低い

観光協会を中心に ／産業建設課長



議員 龍 智 たち

小田産業建設課長

施設

運営の中心的な役割は、観光協会が担う。

物販は、JAの産市部会が中心になってやる方向だが、具体的な事業内容は実行委員会で検討している。

施設は、本体工事を9月に発注し、来年1月に完成させ、4月にオープン計画である。

オープンと同時に、2人を増員する予定だ。

体験型観光の推進計画に当たっては、専門的なアドバイザーを入れない。

責任者の決まっていない組織の事業計画は、実行されるかどうかの信用性が低い。

運営体制と責任者は決まらなかったか。
体験型観光の推進計画に、外部のアドバイザーを活用せよ。

後継者育成の具体策

研修支援や有利制度を活用／産業建設課長

農業振興



夫婦仲良くミツバの水耕栽培

問 第1次産業を伸ばすためには、農業後継者育成が必要だが、基本構想や具体的な施策は描いているか。

認定農業者は、制度資金やレンタルハウス等の事業補助を受けることができる。

後継者が少ないのは、農業所得や作業環境の問題がネックになっていると思う。

小田産業建設課長 平成18年に農業経営基盤の基本構想を作り、認定農業者数を盛り込んでいる。20年度までに55人を認定し、本年度末には目標の56人は達成できると思う。

後継者育成は、県の産業成長戦略に示されている実践研修の支援や有利な制度などを活用し、関係機関と連携して取り組みたい。

情報格差の解消は

問 現在は、ビジネスから趣味の世界まで、ほとんどがインターネットを利用している。

情報通信網が整備されると、行政、産業、医療、教育など、幅広い分野で格差解消につながる。

具体的な整備計画はどのように進んでいるか。

町全域を光回線で

大原総務課長

今回、地域活性化公共投資臨時交付金のメニューに情報格差解消の事業が含まれており、財政的に有利になったので、この際、町全域を一律に取り組む。

具体的には、休校中の明治中学校と野老山小学校にある光回線を利用して無線で飛ばす。無線が困難な地域は、衛星回線を利用する。

事業費は約1億4500万円、国庫補助や交付税措置があり、実質的な町の負担は約500万円になる。

維持管理費は年間約82万円を見込んでいます。

その他の質問

問 黒森山の購入計画の進展は。

答 分割して購入し、仁淀川漁協などの協力で植栽をしたい。【10ページ関連記事】

問 耕作放棄地の拡大防止と活用策は。

答 県補助金の活用で組織的に守る。

野老山中村に薬用作物を栽培し、放棄地の解消に努める。

問 国からの臨時交付金で次年度以降につながる事業は。

答 情報通信のブロードバンド化や学校のICT事業、温暖化対策、少子化対策、情報ステーションなどで活性化を図る。



おおかわ のぶき 議員
大川 信輝

後期高齢者医療 軽減措置が受けられない 制度上変えられない／住民課長

問 後期高齢者医療保険料は、段階的に軽減措置があるが、個人対象なのに家族の所得が多いと均等割の軽減が受けられないなどの問題があるが。

藤原住民課長 保険料率は20年度から変わっていない。

保険料算定の所得判定の扱いは世帯主と被保険者が対象で、制度上決まっております。本町だけが変わることはできない。

高知県の年額の基本保険料は、均等割が4万8569円で、所得割率は8・88%で平均6万3367円となっている。

所得によって均等割額の7割、5割、2割の軽減措置がある。さらに7割軽減の人で年金収入80万円以下の人は9割軽減、それ以外の7割軽減の人は一律に8・5割軽減となる。

また、年金収入153万円から211万円の人は所得割額が5割軽減などの措置がある。

乳幼児医療費

10月1日から実施／住民課長

問 子育て中の人から、小学校卒業までの医療費の無料化を実現してほしいとの声がある。

全国の市町村では、すでに中学校卒業まで無料化しているところもある。

子育て支援は重要であり、いつから実施できるのか。

藤原住民課長 本年10月1日から実施する。

【3ページ関連記事】

そのためのシステム改修と医療機関との調整の準備をしている。

所得制限なしで、小学校卒業まで入院、通院とも全員が無料となる。今回の対象者は276人。

女性の無料がん検診

問 女性特有のがん検診推進事業がスタートする。

国の補正予算が成立して配付される無料検診券は、がん対策推進基本計画にある5年以内に受診率50%達成に大きな弾みになると期待されているが、配付時期はいつか。

4月1日に

さかのぼって実施

藤原住民課長 9月議会に補正予算を計上して取り掛かる。

本年4月1日にさかのぼって無料になるので、配付前に受診した人は領収書を保管しておいてもらいたい。なお、対象年齢が決められているので、詳しくは7月の広報で知らせる。

その他の質問

問 JR越知駅跡地の施設に設置する太陽光発電の規模と財源は。

答 出力10キロワットで、県の産業振興計画の助成と経済産業省の補助金を考えている。

問 国の経済対策交付金の活用は。

答 最大に活用して活性化に取り組む。

問 耕作放棄地の具体的な対策は。

答 県補助金で、野老山に山椒などの植栽を計画。

問 農産物の販売流通の改善は。

答 県の産業振興計画の進捗状況に沿って進める。



子どもたちの健康のために手厚い支援を

公園や植栽の管理をどうする 地元頼りすぎた面がある／町長



みんなが憩えるダム公園として管理



議員 政広 藤 斎

問 桐見ダム周辺の環境整備は県との管理協定により、それぞれが管理しており、地元も20年余り協力してきた。
県は予算がなくなり、草刈りや桜の手入れなどでもきなくなつたと聞く。

ボランティアで整備するにも広場等の活用目的がないと意味がないと思う。
今後の対応を、時間を掛らずに県と話し合うべきではないか。

吉岡町長 今まで地元頼りすぎたということもある。川へも降りにくく、荒れてきたという実感がある。今後の管理をどうするのか、抜本的な解決策を県とじっくり話し合いたい。

職員の合同作業で
片岡副町長 夏の町職員
の合同作業や県職員との合同作業的なものができないか話し合ってみよう。

新組織を作り活性化を 企画部門も必要だが…／町長

組織改革

と組織もマンネリ化する。人員削減で難しいとは思いますが、臨時職員の雇用も考え組織を活性化して町づくりに取り組んでほしい。
課長会も大事だが、町長の考えを投げ掛けて、リーダーシップを発揮してほしい。

吉岡町長 前々から言われて検討したことはあるが、人員削減の中で組織を縮小した経緯がある。
住民課、産業建設課、総務課は大所帯になっており、企画部門を独立すれば、す

問 各課を横断した取りまとめや時代に即応した取り組み、制度作りの提案など、企画部門の新しい課を作る考えはないか。
今の体制では細部に届かないと思うし、長い期間新しい課長が誕生しない

臨時職員を検討

片岡副町長

財政と企画が同じ課というのはいかがなものかと思っているが、集中改革で職員数も決まっております現在の状況となっている。

産業建設課は、交付金事業などで仕事は増えるが、職員数は増やせないで、臨時職員の雇用などを検討したい。

文徳―五味間の 蓋掛けを急げ

問

町道文徳五味線の側溝の蓋掛けが進んでいる。安心して広く使えると喜ばれているが、遊行寺側の県道は大型車の通行が多いため、この道を利用する車が増えている。
文徳から大田石までの完

成はいつか。また、文徳集落内および五味まではできないか。
県道伊野仁淀線も蓋掛けをして通行しやすくなっているが、安い工法で距離を延ばすよう、県に要望できないか。

予算化に努力する

小田産業建設課長

蓋掛けで道路の機能性・安全性が向上するので、現地調査の上、予算化に努力する。

文徳五味線の現在の工区は今年度完成する。それ以外の箇所は局部改良で対応したい。
補助事業の改良工事は、できるだけ蓋掛けをする。県道伊野仁淀線は、継続して要望する。

順次蓋を掛ける

片岡副町長

文徳のお堂付近も含め、順次蓋を掛けていく。

黒森山の購入を計画



伐採が進む黒森山を視察

植栽で水源保護

黒森山の伐採は、平成22年度までかかる予定で、全部伐採するまで待つと山肌の荒廃や崩壊、川の汚濁も考えられる。

水源保護のために山を購入して植栽をしたい考えだが、仁淀川漁業協同組合から「高知県森と緑の会と協力して山に植栽をしたい。植栽の費用は負担する」との話があった。
地権者と購入総額200万円の話を進めており、伐採が終わった個所を分割して購入し、本年11月から来年3月までに第1回の植栽を考えている。



横倉山をアピールできる力を養う

ジオパーク認証 課長が勉強会

近隣町村とともにジオパーク認証をめざして活動を始めたが、課長を中心に「横倉山をもっと知ろう」ということで、7月には博物館で勉強会を行い、秋には横倉山周辺を探索する予定である。



ドクターヘリを 知事に要望

仁淀川流域の首長と知事との意見交換会で、議員や消防団などから要望のあるドクターヘリの導入について、知事の考えを聞いた。
知事からは、早急に取り組みたいとの回答を得た。

新型インフル エンザ対策

徳島県で新型インフルエンザが発生したことにより、6月3日に対策本部を設置し、直接その職務に関わる者のためのマスクや防護服などを準備した。
町内で発生した場合は、県や関係機関と相談して対処する。

日本最古の化石を守れ

(平成17年12月議会)

西川 晃 議員

横倉山にある日本最古の化石や絶滅危惧種の植物が盗まれて、高額で売買されている。

学術的に貴重な資料であり、早急に保護すべきである。

定期的な見回りで保護

博物館学芸員

相当量の化石が盗掘されている。山の崩壊や樹木が枯れる恐れもあり、監視員の定期的な見回りや専門家の協力を得て、保護対策を図る。

処理状況

博物館友の会 などが保護活動

盗掘禁止の看板を設置し、横倉山自然の森博物館友の会などが遊歩道の整備や倒木の処理、動植物の観察会などを行い、保護活動に努めている。また、仁淀川・四国カルストジオパーク構想などにより、横倉山の自然環境を守る取り組みが進められている。



小雨の中、三嶽古道の道づくりに集まったメンバー



倒木の処理もたいへん

広域議会

定例会(5月29日)

諸般報告

期末手当の引き下げ

- ▼消防練習場の舗装補修工事は5月12日に完成した。
- ▼特別養護老人ホームは、介護福祉士の職員数を条件とした介護報酬の加算制度が追加されたため、介護職員の資格取得が一層必要となっている。
- ▼新型インフルエンザが国内で発症した。高齢者や障害者の施設で発生すると感染の拡大と重症化が予測されるため、防止対策に努めている。
- ▼火葬場(高吾苑)の駐車場を整備するため、測量を行っている。
- ▼県の人件委員会の勧告により、6月の期末手当を0・15カ月、勤勉手当を0・025カ月、それぞれ引き下げて、支給割合を1・95カ月とする。
- ▼月の途中で給料額が変わる職員や退職した職員の給料額は日割り計算とする。

監査委員の選任

▼西山毅氏(73) 佐川町甲

土佐ブンタンの知名度アップを

岡林農園（浅尾）

「岡林農園」（浅尾）は、土佐ブンタンやハッサクの生産とドリンクやジャム、ドレッシングなどの自家製商品の開発、販売をしており、本年2月に法人化をしてパートを含めた従業員6人で営業している。

代表の岡林富士男さんは、「他人がやらないことをやる。同じことをしたら大企業にはかなわない」と述べられ、販売先は自分で探し、直販を基本に、卸しや果汁原料の販売で売り上げを伸ばしている。近年、国産の農産物が注目されており、居酒屋やスーパー、外食産業などへの売り込みにも期待を寄せている。



右から従業員の岡さん、仲村さん、代表の岡林さん

従業員の経営研修や農大生などの研修受け入れにも積極的で、農業経営や加工、販売などの人材育成と補助制度を活用した従業員の居住施設の建設も考えている。

また、耕作放棄地の活用や高齢者の農作業支援などへ、行政側の一層の関わりを期待しており、「これからの農業は、高収入だけを目指すのではなく、自分が価値を見いだし、やりがいのあるスタイルでないといけない」と社会的な貢献も視野に入れている。

「土佐ブンタンは全国から見れば知名度は低く、愛媛のミカンがはるかに高い。知名度アップが課題だ」と述べられ、地域（高知、越知）をイメージできる新商品の開発に余念がない。



6月定例会の傍聴者は2人でした。

次の定例会は9月です。多くの方の傍聴をお願いします。

編集後記

今年は何年にも一度と言われる経済危機で、多くの人が失業し、将来への不安と日々の生活も大変な状況である。

一度壊れた経済や環境を元に戻すためには、国のしっかりとした指針と政策が必要である。それがなければ地方行政も将来を見据えた計画を立てることができない。

毎日、政治献金の問題や他党批判の政権争いなどが報道されるが、あまりにも国民の目線から掛け離れている。

どうなる日本ではなく、どうする日本であり、国も町も私たちが変えなければならぬ。

《岡林》

編集・発行責任者

議長 片岡 清則

議会広報調査特別委員会

委員長 西川 晃

副委員長 岡林 学

委員 片岡 久一郎

委員 斎藤 政広

委員 武智 龍

※分かりやすい紙面にと心がけています。読後のご感想、ご意見をお寄せください。